

骨粗鬆症治療から骨折予防へ ：骨密度検査は不可欠か？

骨粗鬆症の定義は、特定の疾患や病態を背景としない全身性の骨脆弱性亢進による易骨折状態である。そして、骨粗鬆症は脆弱性骨折の既往と骨密度に基づいて診断される。臨床的に重要な点は、椎体圧迫骨折もしくは大腿骨近位部骨折があり、原因となる疾患が特定されなければ、骨粗鬆症と診断できることである。この場合には、既存骨折に引き続く二次性骨折を予防するために、骨粗鬆症治療薬の開始が勧められる。そもそも骨粗鬆症の治療目的は骨折予防であり、椎体圧迫骨折を単純X線像で確認したら治療を始めるという姿勢が大切である。（竹内）

【講 師】 **竹内 靖博** 氏

（虎の門病院 副院長／内分泌センター長）



【日 時】 **10月28日**（月）

19:45～21:30

【会 場】 協会セミナールーム
および Zoom

【定 員】 会場 30 人
Zoom 95 人（先着順）

【参加費】 無料（会員限定）

【申込み】 下記に必要事項を記入
のうえ、FAX でお送りください。
ホームページからもお申し込み
いただけます。



※ Zoom 参加希望の方は、協会ホームページからお申し込みください！
本状による申込みはセミナールームでの参加となります。



【10/28 骨粗鬆症研究会 **会場** 参加申込書】>>> FAX: 03-5339-3449

会員名				医療機関名			
参加人数	人	TEL			FAX		

【主催・問合せ】 東京保険医協会 研究部 担当：近藤

〒160-0023 新宿区西新宿 3-2-7 KDX 新宿ビル4階 / TEL: 03-5339-3601